

ポップフラワー

NO. 4

6月6日、澄み渡る青空が広がる中、中学生として最後の体育大会が行われました。「全員が全力で力を出し、後輩たちにその姿を見せる」そんな体育大会にできたと思います。今年は大きく種目の変更があったり、時間をしっかり使った練習ができなかったりしましたが、当日の3年生は、競技も応援もともに素晴らしい姿を見せてくれました。

「スポーツマン」に求められるものには、相手、仲間、審判、ルールを大切に思う気持ち＝「尊重」、失敗を恐れず果敢に挑戦する気持ち＝「勇気」、最後まで全力でやり抜く気持ち＝「覚悟」があると、日本スポーツマンシップ協会代表理事の中村聡宏氏は語っています。また、中村氏は、スポーツマンかどうかは「負けた」ときにわかるとも言っています。勝った相手を心からたたえる。他人や環境のせいにはしない。敗因を分析し、次に向けて再び努力をすることができる。こんな人のことを「Good Loser(グッド・ルーザー)」「(良き敗者)」と呼びます。またその一方には「Good Winner(グッド・ウィナー)」「(良き勝者)」が存在します。「勝っておごらず、負けて腐らず」勝っても負けても、他者から信頼され、心から応援される、そんな「スポーツマン」にあなたはなれたでしょうか。

「体育大会を終えて」の作文より

〈1組〉

私は今回の体育大会で、このクラスになって良かったと思ったことが2つあります。1つ目は、応援の声が大きく、その時にアドバイスをくれる声も聞こえたことです。そのおかげで緊張が少しほぐれ、最後までちゃんと走りきることができました。2つ目は、クラス競技で自分から率先して作戦を立ててくれる人、コツを調べる人などがたくさんいたことです。話しあうときにケンカをしてしまったりもありましたが、自分たちの個性を出しながら、みんなで団結できて良かったと思いました。今回1番楽しかったのは長縄の前にみんなで組んだ円陣です。円陣をやった後の長縄は勝っているのに、やることでみんなの団結力が増しているのかなと思いました。最後の体育大会だったので、1、2年生にいいお手本を見せることができていたらいいなと思いました。

〈2組〉

クラスのみんなと一緒に楽しめました。みんなで競技中の仲間を応援したり、協力して競技に挑んだり、帰ってきた仲間をたたえ合ったり、喜びを共有したりするなど、みんなで1つになって楽しむことができたから、最高だったんだと思います。僕は競技の招集場所でとても緊張していました。そうしたらとなりの3組の人が「がんばろう」と声をかけてくれました。そして走り終わった後その人は「ナイラン!」と言ってくれました。敵同士でも関係なく、お互いの頑張りをたたえあったということに、僕は感動しました。そんな相手がいたこともあって、最高だったのではないかと思います。この体育大会は敵味方みんながいたからこそ最高でした。

〈3組〉

中学生ラストの体育大会、思っていたよりもずっと早く終わってしまいました。前日まで、中学生ラストの体育大会は有意義に過ごそうと思っていたけれど、当日はそんな余裕もなくあっという間でした。後悔だらけの体育大会でしたが、有意義な時間でした。もうやり直しのきかない体育大会を3年3組のみんなとできてよかったと思います。どこよりも熱いクラスメイトだったと思います。来年も、再来年もみんなと体育大会をできるような気がして、でもできないということも実感してさびしいです。音楽会こそは最高のクラスメイトと最高の結果を残したいです。

〈7・8組〉

一番心に残っているものは、全員リレーです。ぼくは全員リレーで2組の10番として走りました。走る前はとても緊張していましたが、走っている時は、2組の仲間として走っているんだなと思いながら走りました。3位でしたが、全力で走れて良かったなと思いました。大縄跳びでは、ぼくは一番前で跳びました。練習では、あまりうまくできていませんでしたが、本番では110回という、とても良い記録が出せて嬉しかったです。体育大会の感想は、悔しいこともあったけれど、後悔はしていません。ぼくたちにとって最後の体育大会が、後悔なく終わることができて、本当に良かったです。

総合優勝 2組

総合準優勝 1組

敢闘賞 7・8組

大縄跳び優勝 1組

全員リレー優勝 3組
